

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172500191		
法人名	特定非営利活動法人ロータス会		
事業所名	グループホーム延寿園(2F 寿ユニット)		
所在地	北海道余市郡余市町黒川町12丁目3番地 ロータスビル		
自己評価作成日	令和 3年 12月 25日	評価結果市町村受理日	令和 4年 3月 30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0172500191-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103
訪問調査日	令和4年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、
 「家庭的で、経済的負担の少ないグループホームにする」
 「穏やかで楽しい尊厳のある生活を保障する」
 「その人らしい、当たり前の生活を保障する」
 の三つを基本理念として、平成15年4月より余市町で二番目の高齢者グループホームとして開業しています。平成19年8月には、訪問介護やデイサービス、住宅型有料老人ホームを同一建物内にもつ、複合的介護事業所として新築されたロータスビルに移転しており、そのメリットを活かし入居者様に質の高いサービスを提供できるよう各部署が有機的に連携する一方、利用料を極力低く抑えて家庭的な雰囲気を大事にし、入居者様に安心して楽しく生活していただくよう、職員一同尽力しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念をホーム内の見えやすいところに掲示し、各職員には理念の暗記と復唱を促し、実践に役立てている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の老人会(はまなす老人会)との介護講習会を通じた連携や、法人共催の盆踊りなどで交流を行っているが、昨今は新型コロナウイルス感染症のため交流する機会は減少している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人会向けに年一回介護講習会を開催している(現在はコロナの為休止中)ほか、地元高校での生徒向け初任者研修の講師派遣、インターンシップの協力や認知症カフェなどのイベント参加を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回の運営推進会議の中で、グループホームとしての行事等の報告、外部評価の結果報告などを行っているほか、実際に利用者にも会議に出席していただき、委員の質問に答えていただく等の取組みを行っている(現在はコロナの為一時的に休止)。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議委員として、余市町民生部保険課介護保険係の職員にご参加いただき、助言や情報提供を行っているほか、コロナワクチン接種においては町担当者と連携し、法人職員・入居者全員の二回接種をR3年6月までに完了している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当事業所の身体拘束に関する指針に基づき、原則身体拘束を行わないケアを実践しており、厚労省「身体拘束ゼロへの手引き」にある具体例にあるような身体拘束を行わない、やむを得ず行う場合は例外三原則に基づいた対応を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている	厚生労働省「高齢者虐待防止の基本」を参考にし、社内研修という形で各職員への説明や回覧を通じ、高齢者虐待の基本や防止に関する知識の共有に努めている。		

グループホーム延寿園(2F 寿ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修を通じ、権利擁護について学ぶ機会を持つ職員はおり、成年後見制度や自立支援事業との連携を行った事例はあるものの、他の職員と共有する機会や職員全員に対する周知などは十分設けられていないのが実情である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にはご家族、ご本人に説明の上契約を行い、また退居時や法改正によるサービス改定時においては、文書や口頭での説明を随時行い、ご本人もしくはご家族の理解や了承を頂くよう心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談窓口を重要事項説明書に明記し入居時に説明も行っている。実際の苦情や相談は経過を記録としてまとめ現況報告として毎年町に報告し、外部評価時における家族アンケートも運営推進会議にて公表し、運営への意見を伺う機会としている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人理事長も出席し、職員から意見を直接聞く場として設けていた全体集会是コロナ過で一時中断しているが、管理者は普段のコミュニケーションで職員からの意見や要望を出しやすくなるよう配慮し、そこで汲み取った要望等を運営の改善につながるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の勤務状況を管理者や事務長が把握し、意欲をもって働ける環境の整備として待遇面やその他研修や福利厚生面での整備に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員の経験や所持している資格、勤務状況を把握したうえで、キャリアアップにつながる研修の案内やサポートを随時行っているが、今期はコロナ過もあり研修の機会は減少している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地元のグループホーム連絡協議会に加盟しているほか、医療や福祉分野も合わせた多職種連携を目的とした団体にも参加し、コロナ過で活動が制限される中、オンライン研修等を通じ積極的交流を図っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事業所の見学を可能な限り行い、またご本人様のお話を伺い、心配事や要望を把握し安心してホームで生活していただけるよう、ご本人様に寄り添った援助を行っている。		

グループホーム延寿園(2F 寿ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設の見学、ご家族との面談を応じ行っており、その中でご家族の困りごとや希望、質問等を伺い丁寧に対応していくことで、信頼関係を構築できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用にあたり、暫定のサービス計画書を作成し、ご本人・ご家族の希望や援助が必要な項目を抽出し、必要に応じ保険外サービスを活用した通院援助など、多様な形で可能な支援の検討、提案を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様個々の能力、意欲を把握し出来ることはご自分で行っていただいたり、ホーム内のお手伝いをお願いするなどし、共同生活者として助け合う存在という認識を持ち関わっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	支払いや電話連絡、面会時などに入居者様の状況をご家族に随時お伝えし、通院や買い物など可能なご協力は積極的にお願ひすることで、入居者様と共に支える存在としての認識を持っていただけるよう関わっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ過で一定の制限はあるものの、可能なご家族には通院の付き添いや買い物をお願いしたり、面会や電話連絡等を通じなじみの関係を維持できるよう心掛けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を良好に保てるよう、日々の雑談やレクリエーションでのコミュニケーションに加え、クリスマス会等の行事で職員とともに歌・仮装・ダンス等の出し物を練習して披露するなどの取り組みを積極的に行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人のサービス終了後も、フォローが必要と思われるご家族に対しては、関係部署との連絡調整も含めご本人様が必要としているサービスを継続して受けられるようフォローを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様やご家族様が望んでいること、やりたいこと等を聞き取り把握するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族からの情報提供に加え、何気ない日常会話の中での情報も活用することで、生活歴の把握に努めている。		

グループホーム延寿園(2F 寿ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の入居者様の様子を観察し、可能な限りコミュニケーションを取り把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケアカンファレンスの場でモニタリングの確認と短期・長期目標更新時と状態の変化に応じ随時討議し介護計画の原案を作成し、ご家族の確認・承認の上更新を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録に日々の支援経過を記録し、職員間で情報を共有している。また、特記事項などは業務日報等に別記載している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一建物内に訪問介護等の他事業所を持つ特性を活かし、保険外の通院介助やデイサービスのスペース・設備を休日に活用するなどの多機能化を図っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ過で外出等がままならない状況下で、地域のスポーツクラブから講師を招いて定期的に健康体操を行うなど、地域資源を生かしたサービスの提供を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはご本人、ご家族の希望を尊重しつつ、事業所の協力医療機関等を利用する際のメリットも説明し、納得して通院出来て医療面のサービスを適切、円滑に継続できるよう援助している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームで医療連携加算を算定しており、法人内で勤務する看護師を配置し、日々の申し送り等で緊密に連携を取っており、休日・夜間もオンコール体制を敷いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご本人の基本情報を書面で提供し、病棟看護師にも口頭で情報提供を行うほか、電話等の連絡も随時行っている。また、病院のソーシャルワーカーとも連絡を取り、退院後のスムーズな復帰に備えた情報のやり取りに努めている。		

グループホーム延寿園(2F 寿ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前や入居時に、重度化・終末期における当事業所の指針について書面で説明し、理解していただくよう努めている。また、実際に終末期を迎えた際は、関係機関と連携しつつ、円滑な移行を行えるよう支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルや看護師へのオンコール体制の他に、症状別対応マニュアルを常備し参考にしている。消防署主催の救急救命講習にも職員を派遣していたが、現在はコロナの影響で休止している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成しているほか、年二回の避難訓練を実施しており、訓練時には地域住民への訓練参加もお願いしていたが、コロナのため現在は職員・入居者のみの訓練を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりへの敬意を払った言葉使い、声のトーン等に気を付けると同時に、家庭的な親しみやすい雰囲気も大事にしバランスの取れた接遇を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意向や希望を可能な限り尊重し、支援するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事(服薬)や就寝、起床時間などの生活リズムに大きな影響の出ない範囲内において、ご本人の希望、意向を尊重し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選べる方には好みの服を選んでいただき、なじみの床屋・美容院に行けるよう援助を行ったり、希望者には職員が無償で散髪するなどのサービスも提供している。		

グループホーム延寿園(2F 寿ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食・夕食は職員も同じ食事を食べており、可能な入居者様には時折野菜の皮むきをお願いしたり等のお手伝いをお願いしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各入居者様の食事摂取量、水分量を毎日記録しているほか、禁食・制限食にも配慮を行いました個人の好みや必要に応じ、おかゆや刻み、トロミをつけ介助するなどの支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に声掛け、見守り一部介助にて口腔洗浄を行っていただき、各入居者様の口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尊厳に配慮しつつ、各入居者様の排せつ状況を記録等を通じて把握し、必要時には介助を行うほか、一部入居者様には個別の下肢筋力の運動を促し、各入居者様が極力自立した排せつを行えるよう個々に応じた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段から接種水分量や体操、運動と便秘との関係について職員から各入居者に説明し、運動や体操、水分摂取を積極的に行っていただけるよう働きかけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日はあらかじめ設定しているが、ご本人の体調や受診・往診、外出等のスケジュールを考慮入浴日や順番を臨機応変に変更し入居者様の負担をできるだけ減らすよう心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転や運動不足にならないよう、体調に応じて休息をとっていただいている。安眠確保のため、医療機関と連携し服薬等の調整も必要に応じ行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報提供書やお薬手帳を個人別に管理しているほか、薬は職員が管理し、服薬時には誤薬や飲み忘れがないよう職員による確認を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ドライブや花見、お誕生会や敬老会、カラオケなどの行事やレクリエーション、ゲームなど入居者様に楽しんでいただけるようなイベントの提供を行っている。		

グループホーム延寿園(2F 寿ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染症の影響で外出や面会は大幅な制限を余儀なくされているが、電話や短時間でも別室での面会など、可能な限りご本人、ご家族の希望に沿えるよう配慮し、繋がりを維持できるよう援助している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所にて小口現金の出納帳を作成し管理を行っており、ご本人の希望に応じ消耗品や嗜好品などの購入を代行したりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により、ご家族への電話連絡やご家族等からの電話の取次は随時行っている。また、手紙等のやり取りも希望があれば援助したり、お礼の電話をするなどの対応も行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気持ちよく過ごしていただくため、毎日の清掃、室温等の温度管理に配慮するほか、共同スペースでは季節感を感じられるような飾りつけを時期に応じて行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の相性を配慮した座席の配置を行い、会話を楽しみ落ち着いて過ごせるよう援助している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドや家具類の配置を入居者様の状態や使い勝手に配慮して配置し、ご本人の要望に沿い、使い勝手や動きやすさを考慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	屋内は段差のないバリアフリーで、廊下、トイレ、浴室に手すりを設置しているほか、入居者様個々の状況に応じトイレに近い居室の選定にしたり、居室前にわかりやすく大きな字で名前を張り出すなどの工夫も行っている。		